



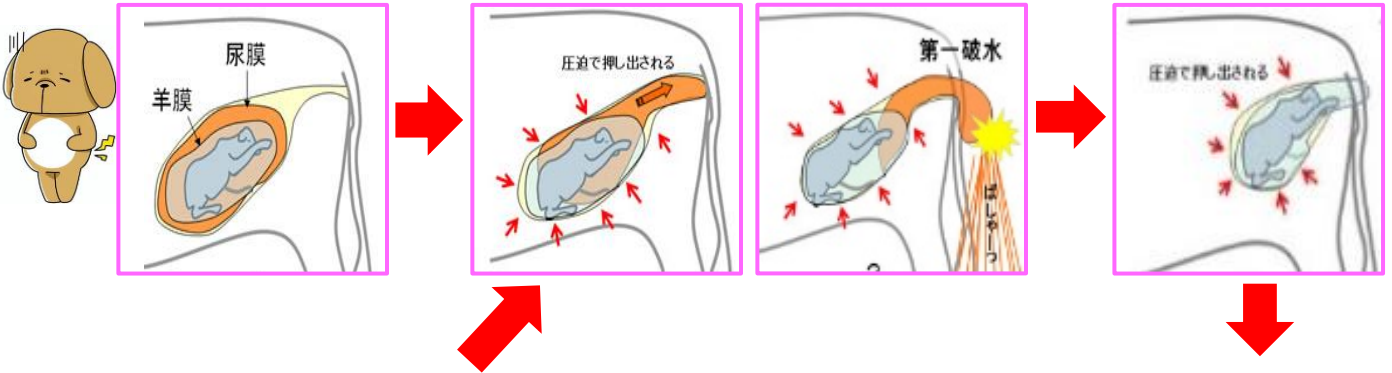
出産

出産は基本的に母犬が羊膜を破いて臍帯を噛み切り、舐めて胎子の呼吸を促します。母犬は**本能的な母性行動**として生んだ後の処置の方法を知っていますが、この一連の流れができない場合は人の介助が必要です。

① 産道の拡張・陣痛

② 第一破水

③ 圧がかかり産道へ



⑤ 胎盤排出

⑥ 再度陣痛が始まると②に戻る

④ 羊膜を被った胎子が娩出

羊膜を破り(第二破水)、臍帯の切断と胎子の呼吸を促す



赤ちゃんか
生まれましたよ

羊膜を被った胎子が出てくる瞬間!!



出産後

⚠️時間がたっても生まれない...

新生子は抗体が無く免疫機能が低い為、生後できるだけすぐ**初乳**を飲ませ防御機能を得ることがとても大切です。また生理機能が未熟な為**体温調節**や**排泄**は自分で行うことができないので、母犬が管理していきます。母犬が子育てを上手く出来ない場合や育児放棄してしまった場合は人口哺乳や排泄を促す管理が必要となります。

陣痛が弱い、破水したが数時間しても胎子が出てこないなど分娩が困難な状態の場合は難産と判断し、**帝王切開**を行う必要があります。

胎子だけでなく、母犬の生命も危険にさらされることもあるので出産を注意深く観察することが大切です。



実は...私の愛犬が妊娠しており、出産予定日は7月末頃になります。この記事が皆さんの手に渡る頃には出産を終えていると思います。母子共に無事に出産を終えられるのかと私自身すごく不安ではありますが新しい子犬たちに出会える事が今はとても楽しみです。





NOAH NEWS



2022年8月号
担当者: 掛橋

今回は犬の妊娠と出産についてお話をします。
個体差はありますが、犬の妊娠期間は58日～65日で人と比べると凄く早いです。出産に立ち会う事は中々多いものではありませんが、出産を考える場合は是非参考にしてください。



犬の妊娠・出産

交配～着床
<18日～21日>

妊娠中期～後期

分娩24時間前

つわり・嘔吐・食欲低下

食欲旺盛・乳腺発達

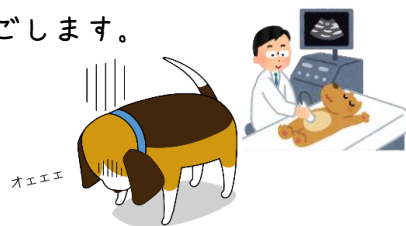
体温低下・陣痛

<妊娠期間> 58日～65日



交配・着床時期

交配後は着床が起こるまで過激な運動は避けて安静に過ごします。
個体によっては**食欲がない**、**嘔吐する**子もありますが、妊婦さんでいう「つわり」のようなものです。
確実に妊娠を確認するには交配から**21日以降**になり、妊娠していると超音波検査で**胎児の心拍**が確認できます！



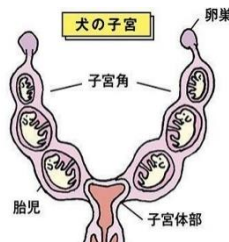
妊娠中期・後期

妊娠中期では胎子の大きな発育はまだありません。
日頃の生活では**適度な運動**を行い、運動不足にならないようにします。運動不足は陣痛を弱めて難産を招きやすくする恐れがある為です。
この時期は食事管理もとても大切で、**胎子の発育の為に多くのエネルギーを必要**とします。妊娠5週目以降から少しずつ食事の量を増やし、栄養不足にならないよう注意します。
出産間近に近づくと胎子は急激に発育し、お腹も大きく膨らみ体重も徐々に増えていきます。
出産予定日10日前頃には胎子がお乳を吸い易いよう乳房周辺の毛刈りとお股周辺の毛刈りを行い、出産時の汚れを最低限になるよう準備をします。
また、ストレスや疲労をさせるような行動は必要最低限にし、**安心して出産できるような環境作りの準備**をします。



出産にそなえて...

交配から**45日以降**からレントゲン検査が可能となり、頭蓋骨や背骨の数を数えて**胎児数の最終確認**を行います。



4頭の頭蓋骨が確認出来ます。

出産直前になると**体温が37.5℃以下**に低下し、床をひっかけ**巣作り**をする仕草や**外陰部の充血**が見られます。